小林ぜんいち NEWS

Zenichi Kobayashi

ご挨拶

令和4年度の一般会計予算は1,579 億 3,500 万円余で、
前年度と比べ106 億 9,400 万円、7.3%の増となりました。
私たち公明党は、区に対し3つの意見を付け、厳しく受け止めて
令和4年度の予算執行にあたられることを強く求めました。
3つの意見は、
1.「新型コロナウイルス感染拡大状況と緊迫する
世界情勢の変化を注視し、新規・拡充事業については
執行方法や時期について、議会への理解を図りながら実施をすること。」
2.「児童館関係の予算については、
再検討した今後の児童館等施設とサービスのあり方を
議会へ報告の上、その議論を踏まえて執行すること。」
3.「商工会館跡地活用については、
近隣住民への十分な情報提供と意見聴取を終えるまでの間は、
事業の進行を止めること。」
私は、中野区役所新庁舎への移転にあたって、
行政から示された「生活保護課」は別の建物へ移転する
差別的な計画に当初から反対し、新庁舎内への移転を求めた結果、
区は最終的に新庁舎内移転に応じました。
また、今春に供用を開始する令和小学校が完成しましたが、
地域の子育て世代も待ち望んでいた「地域開放型学校図書館」を、
当面開設を見送るとしたことについて、
「図書館設備の活用方針も示されていない、
極めて場当たり的な対応」と指摘しました。

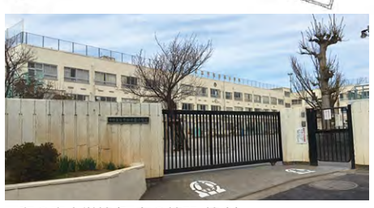
小林 ぜんいち

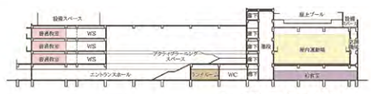
KOMEITO 公明党
第36号
2022年4月発行
中野区公明党議員団

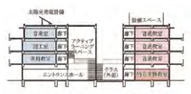
平和の森小学校整備について

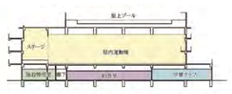
私がこれまで、平和の森小学校を早期に建替えるべきと訴えてきました新たな校舎整備の基本構想、基本計画が、令和4年3月に発表され、いよいよ令和4年度から基本設計・実施設計が2年かけ行われます。令和7年度に着工し、令和8年度末に完成予定。令和9年度から新たな校舎で子どもたちが学ぶことが出来ることになります。

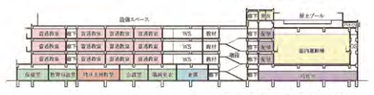
校舎の計画は、ロの字型で、地上4階建てです。中央に吹き抜け空間があり、普通教室は南側と西側に配置されます。
校庭は、校舎の西側に配置予定となっています。
なお、旧中野刑務所（豊玉刑務所）表門は、令和6年から現在の場所から西に曳家・移動工事により保存される予定です。


平和の森小学校（現在の校門・校舎）


A-A´断面図(S=1/800)


C-C´断面図(S=1/800)


D-D´断面図(S=1/800)


B-B´断面図(S=1/800)

【資料出典】
中野区教育委員会事務局子ども教育施設課 2022年（令和4年）3月
平和の森小学校校舎等整備 基本構想・基本設計（案）より抜粋

安心のコロナ対策

PCR検査やワクチン接種など、感染状況に応じて、区民の皆さまが安心して相談や医療を受けられる体制を確保します。自宅療養者のためのパルスオキシメーター、食料品、生活用品の提供も引き続き行います。
また地域活動を再開し活性化させるため、町会・自治会・友愛クラブへの支援を強化。事業者に対する融資の貸付限度額や利子補給の拡充も行います。

公明党議員団では YouTube「ナカコメ チャンネル」で、政策などをわかりやすくお伝えしています。

"ためになる情報"をお届けします！
動画配信サイト「ナカコメ」スタート！
NAKA × KOME
ナカコメはこちら

HOMEPAGE ホームページ

小林ぜんいちオフィシャルWEBサイト
ホームページ
http://kobayashizenichi.com/
Facebook
「小林ぜんいち」で検索
Twitter
「小林ぜんいち」又は「@koba_zen」で検索

小林 ぜんいち

■議会役職等
- 厚生委員会 委員長
- 情報政策等調査特別委員会 委員
- 民生委員推薦会 委員

■経歴
- (株)宮本忠長建築設計事務所
- (有)TAF 設計事務所
- 住宅・教育・医療・福祉・文化・宿泊・耐震等設計監理、専門学校等 講師など

■所属団体等
- (社)日本建築学会正会員
- (社)東京建築士会正会員
- 福祉住環境コーディネーター協会会員
- マンションリフォームマネジャー
- 日本防災士会会員
- 早稲田大学稲門建築会会員
- 中野稲門会会員
- 中野区長野県人会副会長
- 上町町会会長

中野区議会 公明党議員団　中野区中野 4-8-1 TEL.03-3228-8875

令和4年第1回定例会 一般質問

（2022.2.16）

一般質問項目

1. 「中野区基本計画」の見直し・改定について
2. 区政の「構造改革」を問う
3. 区の危機管理対策について
4. 子育て先進区について
5. 「中野区地域包括ケア総合アクションプラン」について
6. すこやか福祉センターについて
7. その他
   1) 視覚障害者用ナビ導入と支援について
   2) 「特殊詐欺対策アダプタ」AIを活用した機器導入と設置支援について

小林ぜんいち 令和4年（2022年）第1回定例会 一般質問から抜粋

「中野区基本計画」の見直し・改定について

小林 昨年策定したばかりにもかかわらず中間見直しは抽象的で、変える要素すら見いだせない。5年という短いスパンでは、十分な取り組みや検証も行えないと考える。具体的に何を改定するのか。

区長 新型コロナの影響で特に計画期間後期の財政見通しが不透明な状況であることから、令和5年度の財政見通しが明らかになった際には、前期2年間の進捗、更には構造改革の進捗状況等を踏まえ、見直しの必要性を判断する。

区政の「構造改革」を問う

小林 策定の目的と乖離していると考えるが、当初の設置目的と、令和4年度予算で生み出された実質的な財政効果はあるのか疑問である。

区長 財政的な緊急事態に対処し、新たな行政需要に応じた効率的なサービス展開を図るため、行財政の構造的な改革を集中的に進め、持続可能な区政運営を目指すものである。令和4年度予算編成における財政効果は、総額5億5千万円余と試算している。

いまだに行われない「危機管理対策」を問う

小林 ①「オミクロン株感染拡大に係る事業継続計画の緊急点検等について」報告がされたが、何をするのか示せておらず、当面の保健所への応援を行う職員の人員割り当ての決定のみである。この調査結果を基に区全体として業務の優先順位を決め、想定される感染拡大の段階、フェーズごとに区民にお知らせし、理解と協力を得るべきである。想定欠勤率20%の想定と根拠は。
②昨夏から第5波が一段落していた昨年末までに、検討・決定する時間が充分にあったにも関わらず、何も決定されていない理由は何か。

区長 ①都の要請による「10%を越える従業員の欠勤」及び保健所等への応援要員を踏まえ、各部各課ごとに20%の欠勤を想定し、点検した。
②中野区政のBCPに基づき、第5波以降感染が拡大した場合の保健所業務への更なる応援体制の確保に向けた各部各課の事業の休止・縮小等を事前に検討し、オミクロン株の感染急拡大についても事業継続計画の緊急点検や保健所応援職員の派遣等具体的かつ迅速な対応を図ってきた。

「中野区地域包括ケア総合アクションプラン」について

小林 ①コロナ禍の経験で顕在化した、地域包括ケア体制のあるべき姿は何か。
②コロナ禍前後で何が変わり、何を変えようとしているのか。
③アフターコロナの課題は何か。
④地域医療支援病院とはどのような病院か。
⑤アフターコロナの視点に立ったアクションプランには、在宅療養・医療・介護の取り組みを充実させ、具体的に明記すべきではないか。

区長 ①新たな感染症の発生や大規模な地震等の災害への備えを強化し、安心して住み慣れた地域で暮らし続けることが必要と考える。
②支援が必要な人の生活課題はこれまで以上に多様化と複合化が進行している。関連機関との連携を図り、早期発見し、支援につなげる相談支援体制を一層強化する必要があると考える。
③これまで以上に相談支援体制やセーフティネットの整備を進めることが課題であり、支援を必要とする人の早期発見や、継続的見守り支えあいを重層的に行う等オールなかので体制を強化していくことが重要である。
④医療法第4条に基づく医療機関であり、身近な地域で医療が提供される体制を確保するための地域のかかりつけ医等の医療機関を支援する役割を担うものである。
⑤平時だけでなく災害時も念頭においた医療・介護連携の強化を中心とする在宅療養の取り組みについて、関係機関と調整を図り、より具体的に記入したい。

すこやか福祉センターの保健師のあり方を問う

小林 ①今後期待される役割は何か。
②役割を果たせるよう、実施する取り組みはあるのか。
③機能を残しながら、健康福祉部と連携を深め、管理する方が良いのでは。
④すこやか福祉センターは診療所機能を有し、開設には医師の確保が欠かせないと考えるが、確保についてどう考えているか。

区長 ①地域包括ケアシステム構築のため、地域の実情に精通した医療の専門職として、保健、福祉、医療、介護の連携の要としての役割を期待されている。
②アウトリーチチームの一員として今後重層的支援体制整備事業の実施に伴い設置する地域ケア個別会議において、専門性を活かし、複雑化・複合化した個別事例の解決を図っていく。
③緊急的な対応が必要な際に、臨機応変かつ迅速な対応ができるよう、平常時から保健予防課への兼務発令をしておくほか、ジョブローテーションにより感染症対応に必要なスキルを保健師が習得できるよう育成を進めたい。
④必要な医師を確保できるよう都に対し要求していく。

建設中の「地域開放型学校図書館」を無駄にするのか

小林 春に竣工する令和小学校では当面開設を見送るとし、かつ、図書館設備の活用方針も示されていない。極めて場当たり的な対応ではないか。

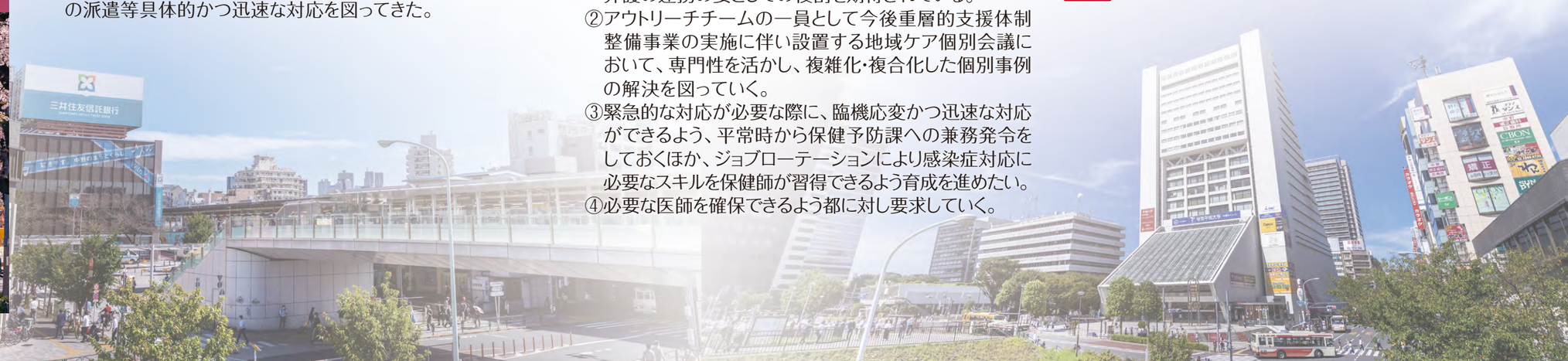
教育長 学校とも調整を図りながら検討を行っており、第二図書室や児童の活動スペースとする等、当該校の児童に有効な活用方法を考えていく。

「視覚障害者用ナビシステム」の導入と支援を行ってはどうか

小林 視覚障害者の歩行を支援するナビゲーションシステムをスマートホンのアプリに連動させた機器を左右の靴に装着し、目的地を設定すると、直進、右折・左折、停止などの情報を靴の中の機器に振動で知らせ、移動をサポートする仕組みがある。
視覚障害者の方々が周りの音に注意を削がれることなく、外出を楽しみながら行えるこうしたサポート機器の活用に期待が高まっている。
区は、視覚障害者用の歩行を補うための振動機器の導入と支援を行ってはどうか。

区長 ニーズや他自治体の状況を参考に検討して参りたい。

「特殊詐欺対策アダプタ」、AIを活用した機器導入と設置支援を行ってはどうか

小林 自動録音装置に代わる「特殊詐欺対策アダプタ」に録音した通話録音データをクラウドに転送し、「特殊詐欺解析サーバ」でAI・人工知能が解析し、特殊詐欺だと疑われる場合に、本人や親族の電話やメールアドレスに注意を促す連絡が入る新たな仕組みが、詐欺防止の検挙にもつながり、注目されている。
区民の財産と命を守るため、巧妙化している特殊詐欺の防止や抑制を、更に強化した対策を図るため、「特殊詐欺対策アダプタ」、AIを活用した機器導入と設置支援をすべきと考える。

区長 費用対効果等について調査研究していく。